

イスラエルの人々③

□イスラエルの人々の信仰の手本（失敗から学ぶ手本）

イスラエルの全会衆は、主の命によりシンの荒野を旅立ち、旅を続けてレフィディムに宿営した。しかし、そこには民の飲み水がなかった。民はモーセと争い、「われわれに飲む水を与えよ」と言った。モーセは彼らに「あなたがたはなぜ私と争うのか。なぜ主を試みるのか」と言った。（出17：1～2）

□これまでの振り返り

1. アブラハム契約・・・神は、全人類の中から一人の人、アブラハムを召し出し、彼に3つの約束を与えた。**土地の約束、子孫の約束、祝福の約束**である。神はその約束を確かなものとして、アブラハムと契約を結ばれた。3つの約束のうち、土地と子孫の約束はイスラエル民族だけに対するものであるが、これらを通してアブラハムは復活信仰に導かれた。
2. 3つ目の祝福の約束は、イスラエル民族だけでなく、全人類に関係する。「地のすべての部族は、あなたによって祝福される」。その祝福とは、アブラハムが信じた**復活**である。アブラハムの信仰にならい、神には死者を生かす力があると信じるなら、全人類、だれであっても神から復活の祝福を受け取ることができる。
3. アブラハム契約が必ず成ると信じる信仰は、**復活を信じる信仰**でもある。この信仰が、アブラハムからイサク、そしてヤコブ（神からイスラエルという名をいただいた）、さらにヤコブの子らへと継承された。
4. ヤコブの子ら、すなわちイスラエルの人々は、エジプトで増えて一つの民族としての規模にまでなったが、エジプト王に仕える奴隷の民となってしまった。神はアブラハム契約の土地の約束に基づき、モーセを遣わして人々をエジプトから救出した。
5. **海を渡った**・・・エジプト王ファラオと彼の家臣たちはイスラエルを解放したことを後悔し、戦車隊を召集して追跡した。紅海に面した海辺に宿営していたイスラエルの人々は、突如エジプト軍が迫り来るのを見て動転したが、主が海の水を分けて道を開いたので、イスラエルの人々は、神を信頼する信仰によって、右と左に水の壁を見ながら、紅海を渡った。
6. **マラ**・・・紅海を渡った後、いったん北上して、シユルの荒野へ。三日間、荒野を歩いたが、水が見つからなかった。やっと水を見つけたが、その**水は苦くて飲めなかった**。それで、その場所を「マラ（苦い）」と呼んだ。民はモーセに「われわれは何を飲んだらよいのか」と不平を言った。モーセが主に叫ぶと、主は彼に一本の木を示した。彼がそれを水の中に投げ込むと、水は甘くなった。
7. **エリム**・・・マラからシナイ半島西岸を南下して、エリムへ。そこには、十二の水の泉と七十本のなつめ椰子の木があった。そこで、民はその水のほとりで宿営した。

8. **シンの荒野**・・・エリムを出発して、シナイ半島中央部に位置するシンの荒野へ入った。エジプトを出てから、ちょうど1か月。手持ちの食糧が尽きて、民はモーセに不平を言った。
9. 主はモーセに告げられた。「わたしはイスラエルの子らの不平を聞いた。彼らに告げよ。『あなたがたは夕暮れには肉を食べ、朝にはパンで満ち足りる。こうしてあなたがたは、わたしがあなたがたの神、主であることを知る。』」
10. その日の夕方、うずらが飛んで来て宿営をおおったので、民はその肉を食べることができた。そして、朝になると、宿営の周り一面に露が降りた。その一面の露が消えると、地面の上には薄く細かいもの、地に降りた霜のような細かいものがあった。民は、それを「マナ」と名づけた。それはコエンドロの種のように、白く、その味は蜜を入れた薄焼きパンのようであった。
11. 主は、六日間マナを降らせ、六日目には二日分のマナを与えて七日目を休ませる、というサイクルで、その日以降、荒野を旅するイスラエルの民を養った。

□イスラエルの人々の信仰③ 水の供給と襲撃者との戦い（出17章）

1. イスラエルの人々は、主の命により、シンの荒野を旅立ち、旅を続けてレフィディムに宿営した。しかし、そこには民の飲み水がなかった。民はモーセと争い、「われわれに飲む水を与えよ」と言った。モーセは彼らに「**あなたがたはなぜ私と争うのか。なぜ主を試みるのか**」と言った。（出17：1～2）
 - なぜ私と争うのか・・・前の宿営地のシンの荒野では食糧が尽きて、民はモーセに不平を言った。そのとき、モーセは次のように民に言った。「主は夕方にはあなたがたに食べる肉を与え、朝には満ち足りるほどパンを与えてくださる。それはあなたがたが主に対してこぼした不平を、主が聞かれたからだ。いったい私たちが何だというのか。あなたがたの不平は、この私たちに対してではなく、主に対してなのだ」（出16：8）
 - なぜ主を試みるのか・・・シンの荒野で宿営して以来、民には食べ物として毎日マナが天から与えられている。主がこうして天からのパンで養ってくださっているのだから、水についてもきつと与えてくださる、と信頼すべきだったのに、民は飲み水を与えよとモーセに迫った。「本当に神が共にいるなら水を与えよ」と、神を試みる不信仰な態度であった（→7節）。
2. 民はそこで水に渴いた。それで民はモーセに不平を言った。「いったい、なぜ私たちがエジプトから連れ上ったのか。私や子どもたちや家畜を、渴きで死なせるためか。」（出17：3）
 - 前の宿営地で食糧が尽きたときも民は同様の不平を言った（出16：2～3）

3. そこで、モーセは主に叫んで言った。「私はこの民をどうすればよいのでしょうか。今にも、彼らは私を石で打ち殺そうとしています。」主はモーセに言われた。「民の前を通り、イスラエルの長老たちを何人か連れて、あなたがナイル川を打ったあの杖を手に取り、そして行け。さあ、わたしはそこ、**ホレブの岩**の上で、あなたの前に立つ。あなたはその岩を打て。岩から水が出て、民はそれを飲む。」(出 17：4～6a)
 - ホレブの岩・・・I コリント 10：4b 「彼らについて来た霊的な岩から飲んだのです。その岩とはキリストです。」
4. モーセはイスラエルの長老たちの目の前で、そのとおりに行った。(出 17：6b)
5. それで、民はその場所をマサ(試み)、またメリバ(争い)と名づけた。それは、イスラエルの子らが争ったからであり、また彼らが「主は私たちの中におられるのか、おられないのか」と言って、主を試みたからである。(主 17：7)
6. さて、アマレクが来て、レフィディムでイスラエルと戦った。(出 17：8)
 - アマレクは、エサウの孫で、エドムの地に住んでいた(創 36：12、16)
 - エサウの子孫全体を指すのがエドム人。その中の部族の一つが、アマレクの子孫であるアマレク人である。
 - アマレク人は、かなり強力な部族だった。民数記 24：20 では「アマレクは国々の中で最高のもの(首位のもの)」と言われたほどであった。その箇所では、「しかし、その終わりは滅びに至る」と預言された(民 24：20)。その成就是、ダビデ王(IIサム 8：12～14)、ヒゼキヤ王(I歴 4：42～43)に関する記録の中に見ることができる。
7. モーセはヨシュアに言った。「男たちを選び、出て行ってアマレクと戦いなさい。私は明日、神の杖を手を持って、丘の頂に立ちます。」(出 17：9)
 - ヨシュアはエフライム族。ヨシュアはモーセの従者(出 24：13)。
 - ヨシュア記の記録などと合わせて見ると、この時ヨシュアは54歳くらい。なお、ユダ族のカレブは、この時は37歳くらい。ヨシュアとカレブだけが出エジプトの第一世代の中で約束の地に入ることになる。
8. ヨシュアはモーセが言ったとおりにして、アマレクと戦った。モーセとアロンとフルは丘の頂に登った。モーセが手を高く上げているときは、イスラエルが優勢になり、手を下ろすとアマレクが優勢になった。モーセの手が重くなると、彼らは石を取り、それをモーセの足もとに置いた。モーセはその上に腰かけ、アロンとフルは、一人は

こちらから、一人はあちらから、モーセの手を支えた。それで彼の両手は日が沈むまで、しっかり上げられていた。ヨシュアは、アマレクとその民を剣の刃で打ち破った（出17：10～13）

9. 主はモーセに言われた。「このことを記録として文書に書き記し、ヨシュアに読んで聞かせよ。わたしはアマレクの記憶を天の下から完全に消し去る。」モーセは祭壇を築き、それをアドナイ・ニシ（主はわが旗）と呼び、そして言った。「主は御座の上にある手。主は代々にわたりアマレクと戦われる。」（出17：14～16）

- この戦いから40年後、モーセはアマレクに襲われたときのことを、イスラエルの次世代に向かって次のように語った。「覚えていなさい。あなたがたがエジプトから出て来たとき、その道中でアマレクがあなたにしたことを。彼らは神を恐れることなく、あなたが疲れて弱っているときに、道であなたに会い、あなたのうしろの落伍者をすべて切り倒したのである。あなたの神、主が相続地としてあなたに与えて所有させようとしておられる地で、あなたの神、主が周囲のすべての敵からあなたを守って、安息を与えられるようになったときには、あなたはアマレクの記憶を天の下から消し去らなければならない。このことを忘れてはならない。」（申命25：17～19）
- この戦いから約420年後、サウル王は、アマレクを聖絶せよという主の命令に違反してイスラエルの王位から退けられ、ダビデに油が注がれることになった（Iサム15～16章）

□ホレブの岩は、第二位格の神、子なる神、受肉前のキリストでした。岩という目に見える形で現れ、その岩が打たれて水が出て、民はそれを飲みました。それから40年間、イスラエルの民が荒野を旅する間、食べ物は天から降るマナが供給され、水はイスラエルの民とともに旅をする「ホレブの岩」が宿营地ごとに飲み水を出して供給してくれる、という奇跡が起き続けることとなります。ここには、民が不平を言っても、それに応じてくださる神の恵みを見ることが出来ます。しかし、その後も不平を言い続けたイスラエルの民のそのときの世代は、ついにカデシュ・バルネア事件（民13～14章、申1：19～46）により約束の地に入ることはできなくなり、40年後、次の世代が約束の地に入りました。

このことは今の私たちへの教訓です。不平を言っても、神は恵みを与えてくださり、支えてくださいます。しかし、その恵みを受けても神を信頼せず、不平を言い続けたりつぶやき続けたりするならば、信者は神との交わりができなくなり、信仰生活に力がなくなります。霊的救いは失いませんが、実を結ばない信仰生活になります。

□アマレクとの戦いでは、モーセの手の上げ下げで戦況が変わりました。これを見たイスラエルの民は、何を学んだのでしょうか。